

令和5年度

兵庫県立視覚特別支援学校

支援部

# アイ・あい だより



11月号

ようやく衣替えができるようになったと思ったら、もう上着やコートが必要な気温になってきました。皆さん体調はいかがですか？今年コロナが少し落ち着いたと思ったら、インフルエンザの流行も早く、各地の学校での学級閉鎖が続いています。冬にかけて乾燥してくる季節です。うがいや水分補給に気を付けて、過ごしてくださいね。

さて、今月も視覚障害と発達障害についてです。

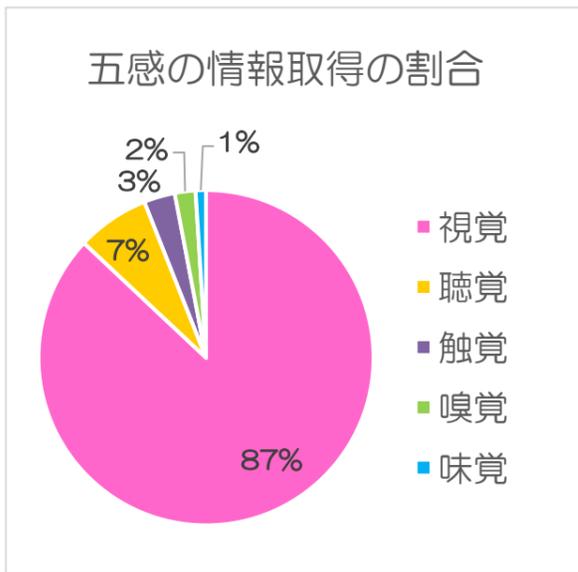


まずは、人間の情報の入力方法についてのお話です。

「情報の入力方法」と言うと、どんなことを思い浮かべますか？「情報の入力」というのは、「感覚の入力」ということです。「感覚」とは、「五感」のことですので、

- ① 視覚
- ② 聴覚
- ③ 触覚・皮膚感覚
- ④ 嗅覚
- ⑤ 味覚

このうち、「視覚での入力」が全体のどの程度占めているか、ご存知でしょうか？何と「87%」という報告があります。考えてみれば、ラジオからテレビへ、テレビにも最近はインタビュー等にも字幕がつくようになり、クイズ番組では聞くだけでなく、文字があることで分かりやすく（覚えやすく）なっています。さらに、スマホやタブレット、駅の券売機などはタッチパネルになっていて、視覚がないと操作が難しくなっています。ちなみにその他の感覚入力の割合は、「聴覚7%」「触覚3%」「嗅覚2%」「味覚1%」となっています。



ということは、視覚障害者はこの「87%」のうちの全部、またはほとんどが入力できず、聴覚、触覚、嗅覚などで情報を取り入れる必要があります。

では、発達障害はどうでしょうか？視覚に障害がないため、視覚からの情報入力を中心になるのですが、発達障害のうち自閉スペクトラム症（ASD）は、聴覚からの情報入力が非常に苦手で、話し言葉や言葉での指示、言葉での説明を正しく聞き取ったり覚えたりすることが苦手で、そのため、「視覚支援」を多く利用し、しっかり書いて伝えることが有効になります。

それでは、「視覚障害+ASD」には、どうすればよいのでしょうか？視覚障害ですので、耳か

らの情報が取れるように練習する必要があります。しかし、ASDの特性として、耳からの情報取得が苦手です。さて、どうしましょう？私は、やはり「視覚支援」を有効に使用することだと考えています。少しでも見えている人はもちろん、全盲の人でも点字が使えるのであれば、書いて指示する、説明することが有効だと考えています。かつての盲学校は、先生が板書などを用いずに、言葉だけで授業を進める姿をよく見ましたが、ASD傾向の児童生徒が多くなっている近年、板書やプリント、書いて伝える、キチンと伝わったか確認することが大切になっています。



次は、コミュニケーションについてです。

ASDの特性として、「コミュニケーションの障害」があります。

昔は、「言葉が遅い」「言葉が出ない」と思われていたのですが、「言葉の発達に遅れがなく、流ちょうに話す」という知的遅れのないASDの存在が明らかになりました。しかし、その人たちは、「流ちょうに話す」ことはできるのですが、その話し言葉には出てこない「話の背景」「行間に含まれる意味」「裏の意味（比喩・皮肉・例え）」の理解が十分でなく、「意図が読めない」「空気が読めない」といった状態があって、「話はあるが、語用論の問題がある」のです。

例えば、話し手が「この部屋暗いね」と言った後に、聞き手が電気を点けたとしましょう。この時話し手は「部屋が暗いので電気をつけて欲しい」ということを意図していたと言えます。直接「電気をつけて欲しい」と言わず、間接的にその旨を伝えるこのような発話行為は、日常生活でよく経験しますよね。「語用論」とは、「話し手が伝えたいと思っている意味」を理解できる様子のことです。コミュニケーション能力の高い人は、ここがとてもよくできるのです。これに対して、語用論の障害があると、「そうだね。部屋は暗いね」だけで終わってしまい、「電気を点けて欲しい」の意図が読み取れないのです。

この「語用論の障害」とは少し違うのですが、実は視覚障害にもコミュニケーションの問題があります。それは「バーバリズム」と言います。「バーバリズム」とは、音声言語としてその言葉を日常生活で活用することができているけれど、実態・概念を知らない状態のことです。視覚障害のある児童生徒は、視覚による情報収集が困難なために、限られた情報や経験の範囲内で概念を形成する場合があります。特に実体や具体的経験を伴わないまま、言葉による説明だけで事物・事象や動作をとらえてしてしまうことがあります。つまり、話し言葉の音韻的側面だけが習得されていて、意味的側面が理解されていないことから起こっています。これが、いわゆる「バーバリズム（唯言語主義）」と言われるものです。

ASDの「語用論」の問題と、視覚障害の「バーバリズム」は、その背景や原因は多少違うのですが、「中身を伴わない」「真の理解ができていない」状態は、よく似ているなあと感じています。

**行事のお知らせ**

第2回保護者交流会	12/4(月) 10:00~12:00
ウィンタースクール	1/5(金) 13:15~15:20